



「教壇原から一望できるまちの景色（本P背景）は最高！」
舟形町地域おこし協力隊
“ウッキー”こと
宇都木俊昭さん

を合わせた活動にも意欲的だ。
移住・婚活の分野が主な仕事である宇都木氏は、人と人とのつながりを重要視。移住を考える人へ“何事もやってみなきゃ分からない No Guts No Glory Go For It.”という言葉を送っていた。神奈川県出身の宇都木さんはその言葉通り、はるばる気候も違う舟形の地を訪れ、実際に地域のつながりとそのあたたかさを感じたのである。

者の幅も話も広がった。「はじめは内輪で盛り上がりつつあった地元の方々が、徐々に自分にも心を開いてくれるようになった。驚いたのは、参加できなかった人にもあつという間に話が伝わったこと。地域の情報ネットワークはすごい！」と長江氏は言う。おかげですぐに地元馴染めたそうだ。

「オールワン舟形を目指しましょう！」
舟形町地域おこし協力隊
“ナガエモン”こと
長江 亨さん



ナガエモンと町民たちの集会には各地区約20名が集まる。テーマをあえて決めずに参加することで参加

品へと成長して欲しいと、今後の活動にも注目だ。



自分も周りの人も食べたことがないからこそ挑戦したい、ゆくゆくは町の特産品へと成長して欲しいと、今後の活動にも注目だ。

黒人参の栽培

地方の荒れた田畑を活用したいという意思をもって協力隊を志した長江氏。福寿野地区のとある畑で集落支援の方々と“黒人参”の栽培を試みている。

黒人参は古代ロマンの里・舟形のイメージにぴったりだがもと中央アジア原産で日本ではまだ普及していないそう。その名の通り真っ黒な根をもち、アントシアニンやポリフェノール等、一般的な人参とは栄養素が異なる。

ナガエモンが行く

Union(ユニオン)



最上協力隊 ネットワーク

「最上の人の人柄、地域のつながりが魅力なんです」協力隊員たちは言う。

最上地域で活動する地域おこし協力隊同士でもネットワークを作りたいと結成されたのが「Union(ユニオン)」だ。各市町村で他の協力隊相手に見学ツアーを行い、互いのまちを紹介しあった。

今年七月で開催二回目となった「V beat(バイブート)」は、最上の食と音楽を融合させたイベントである。開催地舟形町の協力隊であり、イベントを企画した協力隊三年目となる宇都木さんにお話を伺った。

各々の得意分野を持ち寄り、皆で創りあげる音楽・食、そして自然を楽しむ野外フェスティバル。各市町村に特産品やグルメの出店を募り、当日は地元の方や県内外の一般の方まで来場、会場は多くの賑わいをみせた。今後は夏冬と季節を分けてのイベント企画など、個々の協力隊としての活動に加え、ユニオンでの力